

市議会全員協議会における市長の発言について

本日、私からの全員協議会開催の申入れに関し、大変お忙しい中、お時間を頂戴いたしましたことにつきまして、感謝申し上げます。また、庁舎及び福祉会館建設等調査特別委員会正副委員長並びに委員各位におかれましては特段のご配慮を賜りましたことにつきましても、重ねて感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

庁舎等複合施設に関しましては、こがねいひろば及び新福祉会館の耐震システムについて市民のみなさまから多くのご意見があったこと、そして、市議会における申し入れや決議をいただいたことを踏まえ、熟慮するお時間を頂戴いたしましたが、5月14日の庁舎及び福祉会館建設等調査特別委員会で、市長としての考えをお示し、6月2日付けで新庁舎・（仮称）新福祉会館建設実施設計委託の契約をいたしました。

あらためて、全員協議会の場で、「ひろば」「耐震システム」について、実施設計に着手するに至った私の考え方をお示しします。

（仮称）新福祉会館の耐震システムは、庁舎との違いはあっても耐震性能を向上させるため、庁舎と同等の構造体Ⅰ類、重要度係数1.5とすることとした上で、工期及び建設費用等を比較して耐震構造を採用しているため、適切と考えています。

ひろばについては、実施設計において、パブリックコメント及び市民説明会等におけるご意見・ご要望等も踏まえ、幼児が遊べるような設え等の検討を行うとともに、敷地北西の広場面積を広くできるよう、引き続き、検討を進めていくことが適切と判断いたしました。

判断するにあたりまして、（仮称）新福祉会館を免震構造に変更することによる建設費への影響とその構造計画の変更による福祉会館の先行竣工が困難になること、また、その対応に伴う実施設計の業務内容の大幅な見直しや期間の延長が生じ、庁舎の竣工時期が大幅に延伸することが想定

されます。

ご意見や決議等について真摯に受け止め考えてまいりましたが、この段階での方針変更は多大な影響が見込まれることや、これまでの市民参加や市議会での議論を大きく手戻りさせることになり、市長として方針の変更には至りませんでした。

当初のスケジュールより、実施設計の契約がおよそ2か月程度遅れていることから、全体スケジュールが延伸することを想定しながらも、実施設計に着手し、よりコスト削減に努めながら確実に事業をすすめる必要があると考えています。

なお、本定例会においては、新型コロナウイルスに関連して、本事業への質疑もいただきました。

このたびの新型コロナウイルス感染症により、かつてない市民生活への深刻な影響とその長期化が懸念されているところであり、本市においては、緊急対応方針を示し、「いのちを守る」、「暮らしを守る」、「地域を守る」取組を行っています。

新型コロナ感染症への対応は、市政の様々な分野に渡る影響も想定され、経済状況などの見極めは必要であります。この庁舎等複合施設建設事業には、地震に対する、強固で安全性の高い庁舎を整備することを求める市民の皆様の声、早期に新福祉会館をとという市民の皆様の声も多く、優先度の高い事業と考え進めてまいりました。

老朽化、耐震性能、バリアフリー対応、分散化、第二庁舎の賃借に伴う財政的な懸念などの課題を抱える庁舎と、閉館した旧福祉会館機能の早期回復は、新型コロナウイルス対策を行う状況下にあっても、これまで同様、重要な課題と捉えています。

庁舎・（仮称）新福祉会館建設を確実に進め、課題に対応し、防災の拠点、行政サービスの拠点となるよう事業をすすめることが、長期的視点に立った行政運営と考えています。

事業を凍結すれば、当初の目的である課題の解決を結果として先送りする事態になることから実施設計をすすめ、検討できることは、引き続き検討し、事業の円滑な推進に努めてまいりたいと考えています。

本日は、よろしくお願ひ申し上げます。